

国語科より

【受験生 国語（小論文）】

1. ご用意いただくものと配付するもの

① 予め用意して **Gnoble** の授業に持参すべきもの

- 辞書(電子辞書やスマートフォンのアプリ・サイトでも可)・スマホやタブレットなど
解説の補助として国語辞典や web 上のデータを参照することがあります。

② 授業内では使用しないが、ご用意いただきたいもの

- キーワード集(志望分野に応じたもの)

志望分野に関する知識を広めるために必要です。多くそろえる必要はありません。
あれこれ見比べてみて自分が好きなものを一冊用意して、なるべく早く一通り目を通しましょう。
その後も、1か月に1度ほど目を通しなおして知識の定着を図りましょう。

- 志望学部・学科に応じた内容の書籍

志望分野に関する知識を深めるために必要です。各社の新書、岩波ジュニア文庫などで志望分野に対する知識を深めてください。(4・5冊程度は読んでもらいたいです)
各分野の古典的名著を読むのもお勧めします(ダーウィン著『種の起源』や、ファラデー著『ロウソクの科学』、トマス・モア著『ユートピア』やマキアヴェッリ著『君主論』『戦術論』など、読んでみるととても面白い本が古典にはたくさんあります)

- 「赤本」「青本」などの過去問演習用教材(特に夏から受験直前)

夏休み以降、志望校の過去問演習を行うよう学習指示を出します。急ぐ必要はありませんが、最新年度の入試問題まで反映されたものが発売され次第、購入しておきましょう。

③ **Gnoble** の授業内で配付されるもの

- 通常授業テキスト:1 か月ごとの配付です。4月度・9月度の初回のみ当日配付、それ以外は前月最終回にて配付します。
- 季節講習テキスト:講習初日に配付します。

2. 授業の進み方と日々の取り組み

① 授業の進み方

自然科学・人文科学両方の文章・資料にまんべんなく触れられる教材をもとに、「要約」と「小論文」を書く練習を毎回の授業で行います。書いたものは授業担当講師が添削し、翌週お返ししたうえ

で再度解説をします。制限時間内で苦慮しながら筆者の言いたいことを読みとり、作題者が尋ねていることを理解し、自分の意見を書くことを繰り返すなかで、基礎的な日本語力を培います。

②日々の取り組み

A・授業の予復習

小論文では基本的に予習を課しません(前週を欠席した場合は、前回提出問題を解いてきてください)。復習としては、その週に取り組んだ文章を再度読み返すこと、不明な言葉があれば調べることなどを実施してください。取り上げた文章に関する書籍を読んでも知識を広めるためには有効です。また、添削された自分の小論文を読み返し、次の課題で同じ点を指摘されないようにすると尚良いでしょう。長期休みにはそれ以前に学んだものをもう一度振り返りましょう。

B・基礎知識の確認

1ヵ月に1度ほど、キーワード集に目を通し直しましょう。

また、日々ニュースを見たり聞いたりする習慣をつけましょう。そのうえで、得たニュースに対して

①理解し②原因を探り③自分の考えを持つようにしてみることは良い訓練になります。

C・問題集・参考書での演習

それぞれの時期に何をすべきか、授業内でクラス全体にお示しします。一方で、個別の事情もあるかと思しますので、遠慮なく担当にご相談ください。

D・過去問演習

大学・学部ごとに出题形式・傾向の大きく異なる小論文では、過去問での演習が重要です。それぞれの学習状況に合わせ、開始時期や頻度などを指示します。あまり焦る必要はありません。着実に力をつけていくなかで、自然と志望校の問題にも取り組めるようになります。